

被害の大きかったのが、『障害』者や被差別部落、在日外国人^{ざいにちがいこくじん}の人々でした。どうしてそう
なってしまったのでしょうか？そして活躍^{かつやく}したのは、外国の盲導犬^{もうどうけん}や救助犬^{きゅうじゅけん}たちです。ど
うしてでしょうか？

この文章を書ってくれた女の子は「振り向いたらあかん」と思ったようですが、私はち
よっと違うんです。「振り向くのは当たり前^{あてまえ}」だと思うんです。日頃^{ひごろ}見たことないような
光景^{こうけい}に出会ったときって、やっぱりジーンと見てしまうと思うんです。日頃から見慣^{みな}れて
いれば珍^{めづら}しくもないのですが……。ということは、日頃から交流したり、共に生きら
れていないってということかな？「共に生きる」社会^{しやうこ}になっていない証拠^{しやうこ}なのかな？

珍しいからじろじろ見られる→じろじろ見られるのがイヤだから戸外に出ない→

家にこもる→『健常』者の目に触れない→互いを分かり合う機会が少なくなる→

差別意識が強まる→「これではいけない」と思い、勇気を振り絞^{よしば}って戸外へ出る→

やっぱり珍しいからじろじろ見られる→……

この無限ループ^{むげん}の繰り返しをどこかで断ち切^きらなければ「共に生きる」社会には近づけな
いのではないのでしょうか。まずあなたにできる「分かり合うための一番簡単な方法」は、

『障害』者と関わる機会を『健常』者から進んで作っていく→

『障害』者の抱える問題^{かか}（『障害』者問題）を知り、解決できる人間となっていく
ことではないのでしょうか。みなさんはどう思いますか？

実はこの夏^{じつ}、一冊^{さつ}のステキな本に出会いました。次のコーナーをご覧ください。

いきなり!!お便りコーナー

●●●●●▶ 去年のMY SKYで「さびしいときは 心のかぜ
です」という文章と本を紹介^{しょうかい}しました。覚えてますか？その著者山元加津子先生^{おぼ}（養護学校
の先生）にMY SKYを贈^{おく}ったところ、次のようなお手紙をいただきました。

お手紙、御本ありがとうございました。

子供たちのこと、大好きで、たくさんの方に

子供たちのこと、知っていただきたいなあって、いつも思っています。

大ちゃんや、他の私の大切なお友達のお話の本「たんぼぼの仲間たち」

読んでいただけますか。

どうぞお身体大切にお過ごし下さい。

山元加津子

読んでいる間^{あいだじゅう}中、うれしくなったり、ほのぼのしたり、悲しくなったり、悔しくなつた
り、感動^{いっせつ}したりとの連続でした。そんな中の一説^{いっせつ}をぜひみなさんにも紹介したいと思います。

きいちゃんゆかたの浴衣

職員室にいと、きいちゃんがつつてもうれしそうな顔をしてとびこんできました。きいちゃんはいつもとどちらかといえは元氣いんしょうのない印象をあたえる子だったので、驚おどろいてたずねると、「お姉ちゃんが結婚するの。私、結婚式に出るのよ」と言いました。

どんな洋服ようふくを着て出ようか、結婚式ってどんなかしらとそれは楽しみにしていたのでよかったなあと思っていた矢先やさき、ある日、教室で泣いているきいちゃんをみつけました。聞けば、おかあさんがきいちゃんにお姉ちゃんのために結婚式に出ないでほしい、と言ったとのことでした。「私のことが恥はずかしいのよ。おねえちゃんばかり可愛かわいいのよ。私なんか産まなければよかったのに」と言って泣くのです。これがきいちゃんの本心ではないと思うのですが、きいちゃんも、そうきいちゃんに言われたお母さんもとて傷ついているだろうなあと思いました。お母さんは、決してきいちゃんよりお姉さんを可愛がつているのではなく、かえつてきいちゃんのことばかり考えているような方でした。でも結婚式に出ることで、お姉ちゃんかたみが肩身せまの狭い思おもいをするのではないか、お姉ちゃんの子どもに障害を持った子が生まれるのでは、と他の人に思われるのではないかとお母さんは考えられたのだと思います。

そんなきいちゃんに私は何も言つてあげられなくて、いっしょにきいちゃんのお姉ちゃんにプレゼントを作ろうと言いました。お金がないので、さらしぬのの布かなざわを買かい、金沢の山のほうにある二俣町というところそで染めをならつて、白しろい布ゆうひを夕日ゆづりの色に染め、きいちゃんはお姉さんに浴衣ゆかたを縫ぬい上げました。

きいちゃんは小さいときに、高い熱が出て、思つた場所に手をもつていくのが大変になりました。アテトーゼといつて、手てがもつていこうとする所の前へいつたり、後へいつたり……なかなかその場所にいかないのです。だからきいちゃん自身は、縫ぬい物ものができるとは思つていなかったと思います。そして、私自身もきいちゃんていあんが一人で縫ぬい上げるのはむずかしいと思つていました。でもミシンもあることだし「とにかく作つてみようよ」と最初、提案したのです。

でも、きいちゃんはとてがんばりやさんでした。毎日毎日縫ぬつていくうちに、縫ぬい目はだんだんと揃そろつてきました。私はとて驚おどろきました。

そして、きいちゃんていねいは学園へ持つて帰つてからも学校でも丁寧ていねいに縫ぬいつづけ、それは結婚式の十日前しあに仕上がりしました。

きいちゃんがプレゼントして二日ぐらい後だったと思います。きいちゃんのお姉さんから私のところに電話がありました。びっくりしたことに、お姉ちゃんは、きいちゃんとして私にまで、自分たちの結婚式にぜひ出てほしいとおっしゃるのです。最初はお母さんのお気持ちを思い、ためらっていたのですが、きいちゃんと相談して、式に出席することにしました。

きいちゃんのお姉さんはそれはそれはきれいで、幸せそうでした。でもきいちゃんを見て、なにかひそひそ話をしている人が何人かいるのが私には気になり、きいちゃんはどう思っているのかしら、出席しないほうがよかったのではないかしらと思ったりしていました。

そんなことを思っていたところ、お色直しで^{いろなお}扉^{とびら}から現れたお姉さんはなんと、あのきいちゃんが縫った^{ゆかた}浴衣を着ていたのです。お姉さんはとても清楚で可愛らしく、浴衣もとても映えてみえました。感激していたらお姉さんは、だんなさまになる人とマイクの前に立ち、話しました。

「この浴衣は、私の妹が自分の力で縫って、私にプレゼントしてくれました。妹は小さい頃、高い熱が出て、体が不自由になりました。その不自由な手で、こんなにすてきな浴衣を縫ってくれました。妹は小さい頃から家から^{はな}離れて生活しなくてはなりませんでした。私は妹が両親といっしょに生活している私を恨んでないかしらと思ったこともありましたが、でも妹はそんなことは決してなく、私のために浴衣を縫ってくれました。今、高校生で浴衣を縫える人は何人いるでしょう。私の妹は、手が不自由にもかかわらず、浴衣を縫いました。妹は私の^{ほこ}誇りです」

そしてきいちゃんと私を呼んで、私たちを紹介してくれました。

「これが私の誇りの大事な妹です」と……。

今になって私は、なぜきいちゃんの姉さんが結婚式で浴衣を着られたのかしらと考えることがあります。きいちゃんは家では、何もできない不憫な子と考えられていたそうです。でも、こんなにすてきな浴衣が縫えたのを^{らん}ご覧になった時、お姉さんはおそらくきいちゃんに対する気持ちを変えられたのではないかと思います。

たとえ障害があっても、いいえ障害を持っているからこそなお、きいちゃんはきいちゃんだということを、ご自分や家族やこれから家族になる人たちに示したいと考えられたのだと思います。

私はこの話を思い出すと、いつも涙が出そうになります。そのときとても感激したの

で、あまりにも感激したので、いつまでもそのことがよみがえってくるのです。

すばらしいお姉さん、そしてお姉さんの心を動かしたすばらしいきいちゃんのがんばりと、お姉さん思いの心、きいちゃんはきいちゃんとして生まれて出てきた、これからもきいちゃんとして生きていく、もし人から隠れたり、名前を隠したりして生きていったら、きいちゃんの人生はどんなに淋しいものになったでしょう。

私はきいちゃんから多くのことを教えてもらいました。

ところで、きいちゃんはあのあとお母さんに「産んでくれてありがとう。この世に生まれて本当によかった」と言ったそうです。お母さんは涙ぐんでそう話されました。お母さんは私に何度もありがとうと言われたけれど、私はなにもしていないし、かえってこんなすばらしい場面に居合わせてもらって、いっぱいありがとうと思いました。

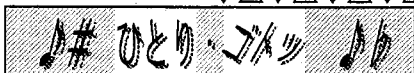
きいちゃんはすごく明るくなって、自信にあふれ、和裁を習うと言いました。そしてそれを一生の仕事に選んだのです。

著者：山元加津子 1957年金沢市生まれ。富山大学理学部を卒業後、小学校の先生を経て、養護学校の先生となる。96年春に石川県立小松瀬領養護学校に移動した。著者とふれあうことで、創作意欲をかきたてられた子どもたちがいっぱいいるのが、うれしい。本書にも登場する原田大助くんといっしょに詩画集『さびしいときは 心のかげです』（樹心社）を95年に発表している。

著者が「たんぽぽの仲間たち」の最後の方でふれているご自分の生い立ち^{お た}は、ほのぼのとした爆^{ばく}笑^{しょう}の連続で、本当に心あたたまるものでした。三五館から1600円で出版されています。続きを読んでみたい方は、是非お求め下さい。私に連絡してくださっても結構です。

今週末の日曜日に行われる文化祭で、手話クラブが手話コーラスをします。また教室にも掲示^{けいじ}してあるように、今月15日には吉野川遊園地で「手話まつり」も行われます。県内の聴覚障害をもった方々や、手話サークルに入っている人、手話通訳をしてる人が集まり、交流を深めるのです。自分から機会をつくって、参加してみませんか？私も行きます。

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼



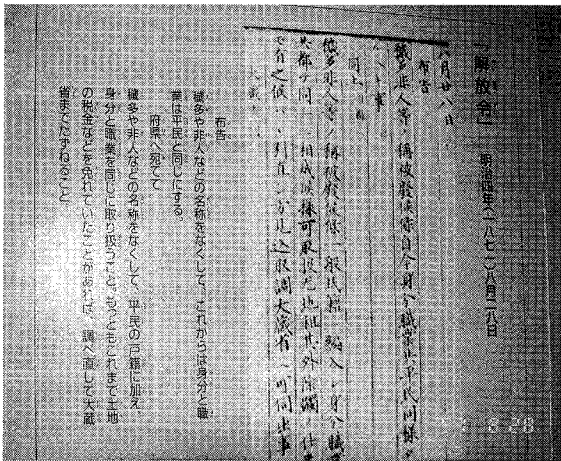
文化祭へ向けて号外^{ごうがい}を出します。なぜかという、この文化祭で1年A組が「教科書無償運動^{きょうかしよむしょううんどう}」を題材^{だいたい}にして人権劇をします。もうみなさんは知ってますよね。もし知らなければ、担任の先生や元担任の先生、責任重大ですよ〜。この機会に、この劇を見ることでもう一度学習を深められればと思います。当日はA I テレビも、特別番組制作のため、取材にやってきます。1 Aのみなさんハリキッテ！

また、1年ではこの劇「教科書無償のたたかい」を題材として、今月18日に全体学習も行う予定です。1年の他のクラスのみなさんも、しっかり学んでおきましょうね！

なお今週金曜日から再開される、教師・保護者などを対象にした「同和教育・部落問題」勉強会も、運動^{れんどう}して「教科書無償運動」を学習したいと思います。たくさんの参加をお待ちしています！！

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★★★ ☆☆☆ ★

- 9月5日(金) 「同和教育・部落問題」勉強会(19:30~; 郡頭教育集会所 テーマ「教科書無償運動」について)
 7日(日) 第22回輝け板中!!秋祭り!!文化祭 テーマ「交わり」《8日(月)代休》
 9日(火) 二学期学習会開始
 12日(金) 「同和教育・部落問題」勉強会(19:30~; 郡頭教育集会所 テーマ「教科書無償運動」について)
 15日(祝) 第8回手話まつり(10:00~; 吉野川遊園地 フリーチケット1800円吉成まで)



学習会県外視察 (大阪人権博物館「リバティおおさか」)
 (97. 8. 28・29)



同上により省略